

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-06-02

能楽研究所彙報(二〇一二年四月～二〇一三年三月)

野上記念法政大学, 能楽研究所

(出版者 / Publisher)

The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute of Hosei University /
法政大学能楽研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 / 能楽研究

(巻 / Volume)

38

(開始ページ / Start Page)

201

(終了ページ / End Page)

218

(発行年 / Year)

2014-07

能楽研究所彙報(二〇一二年四月〜二〇一三年三月)

〔紀要〕『能楽研究』第三十七号の発行

2013年3月31日付で、研究所紀要『能楽研究』第37号を発行した。A5判228頁。内容は次の通り。

【六十周年企画】

シンポジウム報告「能の所作を考える―通底するもの・際だつもの―」

能の所作と伝承―観世鏡之丞氏に聞く―

日本舞踊・歌舞伎の所作―中村京藏氏に聞く

ワークショップ報告「江戸時代初期型付に基づく実験的復元」

能・狂言と絵画―描かれた能・狂言の系譜―

講演(能型付)の新旧―「泣く」から「シホル」へ―

研究展望(平成21年)

山中 玲子
児玉 竜一

中司由起子

江口 文恵

柳瀬 千穂

深澤 希望

宮本 圭造

表 章

能界展望(平成22年)
能楽研究所彙報(平成23年度)

〔第三十四回観世寿夫記念法政大学能楽賞〕

第三十四回観世寿夫記念法政大学能楽賞の受賞者に、2012年12月3日(月)に開かれた選考委員会委員は、松本雍・みなもとごろう・西野春雄・観世鏡之丞・福田好朗(法政大学国際学術支援本部担当常務理事)・徳安彰(法政大学法人本部担当常務理事)・山中玲子・宮本圭造の推薦に基づいて羽田昶氏と粟谷能夫氏の2名が選ばれ、12月7日付で

江口 文恵
宮本 圭造
高橋 悠介
表 きよし
小林 健二
山中 玲子
中司由起子
伊海 孝充
竹内 晶子
石井 倫子

増田壽男総長名義の通知を各方面に発送した。贈呈理由と受賞者の経歴は次の通りである。

〔受賞者〕 羽田 昶(はた ひさし)氏

〔贈呈理由〕 能楽の演出技法研究を重ねてきた氏は、くわえて評論や解説、復曲等の幅広い活動を通じ、常に能の実演と研究、演者と観客とを繋ぐ役割を果たしてきた。その研究成果は2012年刊行の共著『能楽大事典』(筑摩書房)にも十分活かされている。長年に亘る氏の活動が能楽界に果たした多大な貢献を高く評価する。

〔主な経歴〕 東京文化財研究所名誉研究員。武蔵野大学客員教授および同大学能楽資料センター非常勤研究員。1939(昭和14)年東京生まれ。62(昭和37)年国学院大学文学部文学科(日本文学専攻)卒業。海城高校・開成高校教諭を経て、76(昭和51)年に東京国立文化財研究所芸能部研究員となり、演劇研究室長、音楽舞踊研究室長を経て、2000(平成12)年定年退職。同年4月武蔵野女子大学(2004年から武蔵野大学)文学部教授となり、2002(平成14)年から定年で退職する2010年まで同大学能楽資料センター長を兼務。この間、1967～78年『能楽タイムズ』の編集と執筆に携わるほか、73～88年には「能楽鑑賞の会」運営委員として活躍。80年以降は文化庁芸術祭能楽部門審査委員、国立能楽堂三役研修講師、国立劇場専門委員、文化審議会文化財部会専門委員等、国の文化芸術に関わる職を歴任した。また「楽劇学

会」の理事・会長としての活動、国立能楽堂研究公演での復曲能・狂言の演出担当など、研究と実演の場を繋ぐ仕事も多い。監修レコードに『京観世をたずねて』(1980年・ソニー)、共著書に岩波講座『能・狂言 能の作者と作品』(1987年・岩波書店)、『能の囃子事』(1990年・音楽之友社)、『能楽大事典』(2012年・筑摩書房)などがある。

〔受賞者〕 粟谷 能夫(あわや よしお)氏

〔贈呈理由〕 伝統的喜多流の芸系を踏まえ流儀の中核として充実した舞台を展開している氏は、2012年の〈松風〉〈砧〉(八島)において特に優れた舞台成果を見せ、重厚と瀟洒を併せ持つ独自の芸境を印象づけた。後進の指導に力を尽くし、また、地頭・副地頭として多くの舞台の成功を支えていることも高く評価される。

〔主な経歴〕 喜多流シテ方。1949(昭和24)年9月12日、喜多流シテ方粟谷新太郎の長男として東京に生まれる。54年〈花筐〉の子方にて初舞台。祖父益二郎、父新太郎の指導を経て、同年喜多流十五世宗家喜多実入門。60年(経政)で初シテ。72年(狸々乱)、75年(小鍛冶白頭)、79年(道成寺)、83年(翁)、84年(石橋連獅子(ツレ))を披く。観世寿夫に憧れて他流の能にも目を向けるようになり、若い頃から小劇場の演劇やライブなどにも頻繁に通った。88年には浅井文義(観世流)、櫻間金記(金春流)とともに流儀を超えた同人組織「三鈴の会」を結成。同会では新作能(鷹姫・幻・晶子みだれ髪)の上

演や岡本章主宰「練肉工房」との提携公演など、数々の意欲的な試みを行う。また流儀の仲間と「妙花の会」「広島花の会」を発足させ研鑽を重ねるとともに、「粟谷能の会」において(安宅・隅田川・望月・卒都婆小町・石橋・木賊・鷄嶋小町)を披演。2000年には従弟の粟谷明生と「粟谷能の会研究公演」をスタートさせ、地謡の研鑽や小書の見直しを行うなど、積極的に活動を続けている。「粟谷能の会」主宰。重要無形文化財総合指定保持者。日本能楽会会員。一般社団法人日本能楽会理事。公益財団法人十四世六平太記念財団理事。

なお贈呈式は、次に記す催花賞とあわせて、2013年1月14日(月)午後6時半より、ハイアットリージェンシー東京で開かれた。受賞者をはじめ、選考委員、法政大学関係者、能楽関係者ら75名の出席のもとに、徳安彰常務理事から賞状と賞金(各30万円)が贈られ、レセプションに移って歓談の後、午後8時半過ぎに散会した。

【第二十三回催花賞】

〔受賞者〕 一色町能楽保存会(いっしきちょうのうがくほぞんかい)(会長 吉川貞夫)

〔贈呈理由〕 南北朝期以来の伊勢猿楽の歴史を受け継ぐ同会は、地域を挙げてその伝統の保存・継承に努めるとともに、伊勢を舞台に精力的な演能活動を展開している。猿楽の成立を考える上できわめて重要な呪師の芸能を今に伝えている点

や、地域の人々の献身的な努力と熱意のもとに能楽の振興が図られている点も高く評価される。

〔主な活動履歴〕 三重県伊勢市一色町の能楽保存団体。一色町での能の歴史は、伊勢猿楽の和屋座の大夫が戦国期の争乱によって一色町に移住したことに始まる。以来、同地では町民による神事能が行われ、その保存・継承を目的として、1968(昭和43)年に保存会が結成された。同会では毎年3月に一色神社の神事能として「一色能」を行うほか、1998(平成10)年、同じく伊勢の地で活動する通り能・馬瀬狂言の保存会とともに「伊勢の伝統の能楽を継承する会」を結成、「伊勢の伝統の能楽祭り」を毎年開催している。能は喜多流、狂言は和泉流。高林白牛口二・野村又三郎他の指導を受ける。後継者の育成にも積極的に取り組み、小学生から高校生までの子供会員は2012(平成24)年現在約20名を数え、地元の幼稚園児も謡の習得に励むなど、地域ぐるみで能の伝承が図られている。「一色能」として伊勢市無形民俗文化財に指定。呪師の芸能を伝える「二色の翁舞」は、「国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」の選択を受け、08(平成20)年に調査報告書が、09(平成21)年に映像記録が作成された。2012年12月現在の会員75名。

【研究・調査活動】

型付資料の全国的調査と古型付の復元
文部科学省科学研究費補助金(基盤B)「能楽「型付」の全

国的調査と、技芸伝承におけるその役割についての総合的研究」(平成21〜24年度。研究代表者山中玲子)に基づく研究プロジェクトの最終年度。前年度に引き続き「秋田城介筆型付」研究会において同書の解説・分析を進め、能役者の協力を得て四曲の演出を復元・実演した。詳細については前号掲載の「ワークショップ報告」江戸初期型付に基づく実験的復元」参照。

型付の記述ルール解明のための、文理融合研究

異分野融合による方法的革新をめざした人文・社会学研究推進事業「工学的知見の活用による能楽「型付」の記述ルール及び技芸伝承システムの解明」(平成21〜25年度。研究代表者山中玲子)に基づく文理融合の研究プロジェクトの第四年目。合成ツールの精度を上げ、研究者・素人の愛好者等による評価もおこなった。これらの研究成果は、SIGGRAPH 2012(米国・ポスター発表)、Cyberworlds 2012(ドイツ)等、国際学会で発表した。また、研究者能役者・歌舞伎役者・武術研究者・チェコ語狂言の役者等を招き、シンポジウムを開催。本研究の作業過程で明らかになってきた型付の記述ルールや能の所作の特徴については研究メンバーの中心が、成果を発表した。同シンポジウムの詳細については前号掲載の【報告】創立60周年記念シンポジウム 能の所作を考える―通底するもの・際だつもの―」参照。

金春家旧伝文書の総合的調査

文部省科学研究費補助金(基盤B)「能楽資料学構築に向けた金春家旧伝般若窟文庫の総合的文書調査」(平成22〜25年度。研究代表者宮本圭造)に基づく研究プロジェクト。能楽研究所が所蔵する金春家旧伝文書の解題目録作成に向けた総合的調査を行う。本年度は、伝書抜書・謄本・書状などの資料を中心に撮影・デジタル化を進めるとともに、個人蔵の金春大藏家伝書の調査・撮影、大阪天満宮蔵の江戸期の自家日記に見える演能記録の調査などを行った。これらの成果は近くホームページ上での公開を予定している。

若手研究者による能楽研究会

今年度も学内外の若手研究者による研究会を行った。各回の発表者と題目は以下の通り。

第24回 5月31日

能における禪と隠遁

周 重雷

第25回 6月19日

世阿弥の「禪的教養」をめぐる考察

上野 太祐

第26回 7月27日

寛延三年元章勸進能について―興行収入の歴史から―

青柳有利子

享保から明和頃の「大原御幸」

井上 愛

明和改正謄本『絵馬』について

中司由起子

観世元章の型―小書演出のない曲をめぐる―

第27回 9月13日

観世長俊と風流―(輪藏)を中心に―

深澤 希望

第28回 10月16日

(木霊浮舟)の浮舟像

三浦 玲

第29回 11月20日

「千手」をめぐる

倉持 長子

第30回 12月21日

今読み解く能(俊成忠度)

井上 愛

第31回 1月28日

高松藩の能

柳瀬 千穂

第32回 2月26日

能(当麻)における本説処理

青柳有利子

第32回 3月29日

フランスにおける能の公演をめぐる諸問題

ツアラヌ・ラモーナ

ビューニユ・マガリ

「鴻山文庫蔵能楽資料解題 下」の作成について

創立60周年事業の一つとして、「鴻山文庫」の解題を年度内に刊行すべく鋭意進めた。作成の段階で新たな未整理の資料が見つかるなど、作業は難航し、年度内の刊行は実現しなかった(平成二十五年度に刊行済。総頁六百二十頁)。

【教育・普及活動】

ワークショップ「江戸初期型付に基づく実験的復元」

11月15日18時〜20時30分 於・青山 鏡仙会能楽研修所

江戸初期筆「秋田城介型付」に基づく仕舞の復元をおこない、能楽師に舞ってもらうワークショップを開催した。演目と分担は以下の通り。

(千手)クセ 井上貫覚(復元中司由起子)、(自然居士)クセ 馬野正基(復元江口文恵)、(田村)キリ 井上貫覚(復元深澤希望)、(山姥)キリ 馬野正基(復元柳瀬千穂)、司会 山中 玲子

能楽研究所創立六十周年記念シンポジウム

「能の所作を考える―通底するもの・際だつもの」

能楽研究所創立六十周年を記念するシンポジウムが2012年11月18日、ポアソナード・タワー26階スカイホールにおいて、午前10時から午後5時30分まで開催された。

テーマは「能の所作を考える―通底するもの・際だつもの」。題目と講師は次の通りである。

午前の部

講演「狂言の「型」―表現法の本質に迫る」

ヒール・オンジェイ(茂山千五郎家狂言研修生、なごみ狂言会チエコメンバー)

講演「身体運用の根幹を知る―背・大腿・股関節―」

甲野善紀(武術研究家)

午後の部

研究報告「文理融合による能の所作研究」

中司由起子(法政大学能楽研究所兼任所員)

対談「能の所作と伝承」

観世鏡之丞(能楽シテ方観世流)

聞き手 山中玲子(法政大学能楽研究所教授)

対談「歌舞伎の所作・踊りの所作」

中村京蔵(歌舞伎俳優)

聞き手 児玉竜一(早稲田大学文学学術院教授)

エクステンションカレッジ・東日本大震災チャリティ講座

「新・能楽講座」

2004年度から新シリーズを開始したエクステンションカレッジの能楽講座の第9回。本年度の講座名は「新・能楽講座Ⅹ―(海士)徹底分析―(4日間4講座)。(海士)一曲をとりあげ、テキストを丁寧に読み作品の概要を押さえ、演出のバリエーションや曲の本意について実演者からお話を伺うとともに、興福寺の宝珠や志度寺の縁起、龍女、法華八講等、

〈海士〉に関わる仏教世界や、藤原北家にもつわる歴史的背景、関連芸能等、様々な角度から〈海士〉について考えた。4日間の内容と講師は次の通りである。

第1回 〈海士〉のテキスト精読

山中 玲子

第2回 〈海士〉の演出研究と実演について

観世 喜正・中司由起子

第3回 〈海士〉の仏教的世界

高橋 悠介

第4回 〈海士〉の歴史的背景とさまざまな芸能 宮本 圭造

「資料の受贈」

岩田裕吉氏より、野上豊一郎・弥生子夫妻御遺蔵の能面・鼓胴など、野上家旧蔵資料十数点の資料の寄贈を受けた。御寄贈いただいた資料は平成二十五年冬に法政大学ポアソナードタワー博物館展示室で開催された「野上豊一郎と弥生子展」において初めて一般公開された。ご寄贈いただいた岩田氏のご芳志に対し厚く御礼申し上げます。

「所員の活動」

山中 玲子

「所作単元デジタルデータベースと演技合成ツール―新しい型付研究をめざして―」 『能と狂言』10号 24年4月

「天女舞」応用の一形態―神と遊女が舞った菩薩の舞―

『中世文学と隣接諸学7 中世の芸能と文芸』竹林舎 24年5月

「世阿弥時代の能の演技(Performing Nô in Zeami's Time)」

『Enriching Culture Japanese Theater in Historical and Modern Contexts』 IJUDICUM 出版 24年8月

「Development of Easy-To-Use Authoring System for Noh (Japanese Traditional) Dance Animation」

Masaki Oshita, Takeshi Seki, Masami Iwatsuki, Yukiko Nakatsuka 共著

"International Conference on Cyberworlds 2012"

24年9月

「能楽研究所創立60周年記念シンポジウム『能の所作を考え
る―通底するもの―際だつもの―能の所作と伝承』―観世
鏡之丞氏に聞く―」

『能楽研究』 37号 25年3月

「研究展望(平成21年 作品研究)」

『能楽研究』 37号 25年3月

「講演・対談等」

「能の伝承―模倣と創造―」(講演・友枝雄人氏との対談)

「模倣と創造―日本とヨーロッパにおける文化伝承の現象
学」第2回 於：明治大学 24年7月

「能の所作と伝承」(観世鏡之丞氏との対談)

能楽研究所創立60周年記念シンポジウム「能の所作を考え
る―通底するもの―際だつもの―」 於：法政大学 24年11月

「世阿弥の言葉をさぐく」

講座 歴史の歩き方 第62回 「『風姿花伝』に学ぶ」

於：よみうりホール 25年3月

宮本 圭造

「レンズがとらえた能楽史⑩」 『能と狂言』 10号 24年4月

「能・狂言と絵画」 『能楽研究』 37号 25年3月

「みちのくの能・狂言」(青柳有利子、内田英亮他と共著)

『国立能楽堂調査研究』 7号 25年3月

「観世文庫の文書48 『福王甚五郎出勤停止につき言上状』」

『観世』 80巻3号 25年3月

「研究展望(平成21年 資料研究)」

『能楽研究』 37号 25年3月

「講演・研究発表等」

シンポジウム「能・狂言の絵画資料」趣旨説明―列品解説を
兼ねて― 能楽学会大会 於：法政大学 24年5月

特集「饗応と贈答のなかの中世芸能」コメントーター

芸能史研究会大会 於：同志社大学 24年6月

「翁面と鬼神面―能面の源流を探る―」

観世流研修会 於：観世能楽堂 24年6月

「鬼神面の系譜」 観世流研修会 於：観世能楽堂 24年12月

「風俗画に描かれた能狂言―伊勢参詣曼荼羅を中心に―」

風俗画研究会 於：立命館大学アート・リサーチセンター
24年12月

「みちのくの能・狂言」

「展示」 於：国立能楽堂 25年1月

「能・狂言を描く」展示解説

於：法政大学 博物館展示室 24年5月

「収蔵資料展―みちのくの能・狂言―」監修

於：国立能楽堂 展示室 24年12月～25年1月

「収蔵資料展―能絵鑑の世界―」展示解説

於：国立能楽堂 展示室 25年2月～3月

表 きよし

- 「特集・能と狂言の将来を考える 大会テーマの企画にあたって」 「能と狂言」 10号 24年4月
- 「今年の鏡仙会公開講座」 「鏡仙」 24年10月
- 「研究者に聞く 第十回その一」 「鏡仙」 24年11月
- 「研究者に聞く 第十回その二」 「鏡仙」 24年12月
- 「講座・能との新たな出会いⅢ」 於…鏡仙会公開講座 24年4月
- 「講座・能との新たな出会いⅣ」 於…鏡仙会公開講座 24年9月
- 「シリーズ講座・世阿弥を読む(花伝)」 於…オフィスしみかん 24年4月～8月
- 「シリーズ講座・世阿弥を読む(花鏡)」 於…オフィスしみかん 24年11月～12月
- 「アート講座Ⅳ・能・狂言の魅力」 於…芸術によるまちづくり・かわさき実行委員会 24年10月
- 「鏡仙会定期公演事前講座」 於…鏡仙会 25年2月
- 小林 健二
- 「中世文学と隣接諸学7 中世の芸能と文芸」(編著) 竹林舎 24年5月
- 能の絵画的展開―二つの新出資料をめぐる―
- 「中世文学と隣接諸学7 中世の芸能と文芸」 竹林舎 24年5月
- 「『平家物語』から芸能へ―悪七兵衛景清像の展開」 「観世」 79巻7号 24年7月
- 「豊公能(高野山詣)制作上演の背景」 「文学」 9・10月号 24年9月
- 研究展望(平成21年 能楽史研究) 「能楽研究」 37号 25年3月
- 「講演・研究発表」 研究報告講演「屏風絵を読む―香川県立ミュージアム蔵「源平合戦図屏風」をめぐる―」 科研費基盤研究B研究課題…「文化現象としての源平盛衰記」研究―文芸・絵画・言語・歴史を総合して― 於…国学院大学 24年4月
- 基調講演「物語絵となった能―絵巻・絵本、そして屏風絵―」 能楽学会大会 於…法政大学 24年5月
- 石井 倫子
- 「転生する中将姫―本地物としての(当麻)―」 「鶴沢久の会 第16回公演パンフレット」 24年10月
- 「書評・伊海孝充著『切合能の研究』」 「国語と国文学」 89巻9号 24年9月
- 「書評・小川剛生著『足利義満 公武に君臨した室町武将』」 「国文目白」 52号 25年2月
- 「能界展望(平成二十二年)」 「能楽研究」 37号 25年3月

- 〔講座〕
能楽水先案内「能にみる日本の物語」
於…日本女子大学生涯学習センター 24年4月
〔当麻〕をよく知る為の事前講座
於…国立能楽堂大講義室 24年10月
能楽水先案内「世阿弥の稽古論―『風姿花伝』」
「第一年来稽古条々」から「習道書」へ―
於…日本女子大学生涯学習センター 24年11月
能楽鑑賞事前講座「巴」
於…日本女子大学西生田成瀬講堂 25年1月
- 伊海 孝充
研究展望(平成21年 狂言研究)
〔研究発表〕
〔儀理能に関する一考察〕
能楽学会大会 於…法政大学 24年5月
〔酒宴を描く―軍記物語の饗宴と芸能の相関性―〕
〔文化現象としての源平盛衰記〕研究 公開研究集会
於…国学院大学 24年10月
〔解説等〕
〔明窓浄机〕
〔金春月報〕 24年4月～25年3月
〔平家物語略年表〕
〔観世〕 79巻8号 24年8月
〔平家人物相関図〕
〔観世〕 79巻9号 24年9月
- 江口 文恵
〔番外曲(竹取)考〕
〔鎮仙〕619号 24年11月
ワークシヨップ報告「江戸初期型付に基づく実験的復元」
中司由起子、柳瀬千穂、深澤希望と共著
〔能楽研究〕 37号 25年3月
〔研究展望(平成21年 単行本)〕
〔講演・研究発表〕
〔江戸初期型付に基づく実験的復元〕(中司由起子、柳瀬千穂、深澤希望と共同)
能楽学会例会 於…鎮仙会能楽研修所 24年11月
ポスター発表「江戸初期型付に基づく実験的復元」(中司由起子、柳瀬千穂、深澤希望と共同) 能楽研究所創立60周年記念シンポジウム「能の所作を考える―通底するもの・際だつもの―」 於…法政大学 24年11月
〔手にとってみる演劇博物館のたからもの―モノからひもとく演劇史―〕第四回「資料で見る能の歴史」早稲田大学エクステンションセンター冬講座 於…早稲田大学 25年1月
- 中司 由起子
〔国立能楽堂公演番組解説〕
〔鎮仙〕 24年4月～25年3月
〔金春会定期能番組解説〕
〔国立能楽堂〕 24年4月～25年3月

- 「観世文庫の文書37」 〔観世〕79巻4号 24年4月
 「小段つてなに？」「中ノリ地」①②・「キリ」・「ノリ地」①
 ②・「コトバ」の小段
- 〔観世〕79巻6号～10号 24年6月～10月
 〔観世〕80巻3号 25年3月
- “Development of Easy-To-Use Authoring System for Noh
 (Japanese Traditional) Dance Animation” Reiko Yamataka,
 Masaki Oshita, Takeshi Seki, Masami Iwatsuki 共著
 “International Conference on Cyberworlds 2012”
 24年9月
- 「秋田城介型付」におけるタイハイ」 〔鏡仙〕620号 24年12月
 ワークショップ報告「江戸初期型付に基づく実験的復元」
 江口文恵、柳瀬千穂、深澤希望と共著
 〔能楽研究〕37号 25年3月
- 「研究展望(平成21年 作品研究)」 〔能楽研究〕37号 25年3月
 「研究発表」 〔能楽研究〕37号 25年3月
- 〔能(葛城)考―シテの序の舞と「大和舞」〕
 中世文学会春季大会 於：中央大学 24年11月
 「研究報告・文理融合による能の所作研究」 能楽研究所創立
 60周年記念シンポジウム「能の所作を考える―通底するも
 の・際だつもの―」 於：法政大学 24年11月
 「江戸初期型付に基づく実験的復元」(江口文恵、柳瀬千穂、
 深澤希望と共同) 能楽学会例会 於：鏡仙会能楽研修所 24年11月
 「講座等」 能楽学会例会 於：鏡仙会能楽研修所 24年11月
- 「伝統芸能シリーズ 能への誘い」首都大学東京オーブンユ
 ニバーシティ 於：首都大学東京 25年1月～2月
 NHK教育テレビ「能狂言」解説
 24年7月・10月、25年1月・2月
- 高橋 悠介
 「貞慶の春日信仰―称名寺聖教を通して」
 「解脱上人貞慶―鎌倉仏教の本流」
 奈良国立博物館・神奈川県立金沢文庫 24年4月
- 「荒神の図像について―如来荒神を中心に」
 「仏教美術論集 第二巻 図像学―イーイメーシの成立と伝承」
 竹林舎 24年5月
- 「世阿弥から禅竹へ―六輪―露説と禅の問題を中心に」
 「中世文学と隣接諸学7 中世の芸能と文芸」
 竹林舎 24年5月
- 「金沢文庫の中世神道資料」日本得名―翻刻・解題―
 「金沢文庫研究」329 24年10月
- 「観世文庫の文書46 列帖装小型中本「恋のおもに」」
 「観世」80巻1号 25年1月
- 「観世太夫家における世阿弥自筆能本―国立能楽堂「観世文
 庫」展を通して」

『平成23年度国立能楽堂企画展示「観世文庫展」報告書』

日本芸術文化振興会 25年3月

研究展望(平成21年 能楽論研究)

『能楽研究』37号 25年3月

〔研究発表〕

「伝白雲慧暁撰『由迷能起』について」

「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究」研究
集會 於：国際高等研究所 24年8月

“The concept of the National Land, and the syncretism of
kami worship and Buddhism”

国際シンポジウム“National Identity and Religion”於：フ
ランスCEEJA (Centre Européen d'Etudes Japonaises d'Al
sace)
24年11月

「プラハ国立美術館本『釈迦の本地』について」

国際シンポジウム報告会「ヨーロッパの博物館・美術館保
管の日本仏教美術コレクションと日本観の形成」
於：法政大学 24年11月

〔蔵書の出品・掲載〕

①NHK中高生向け教育番組「10 min. ボックス国語／古
文・漢文」『狂言』（2007年制作の再放送）2012
年6月29日、および番組ホームページに、『天正狂言本』
の映像使用を許可した。

②JR東日本発行の会員誌『大人の休日倶楽部ジパング』お

よび『大人の休日倶楽部ミドル』各2012年6月号に
『二曲三体系人形図』『天女舞』の掲載を許可した。

③東京文化財研究所発行の『概要2012』に、『室町末期
筆長頼本』『呉服』、『金春喜勝節付綴帖本』『呉服』の掲載
を許可した。

④福岡市博物館で開催された平成24年度博物館特別展『能の
かたち NIPPON美の玉手箱』（会期2012年9月
15日～11月11日）に、池田茂政書状「長知宛」ほか、計10
点の貸出を許可した。

⑤ハースト婦人画報社発行『婦人画報』2012年10月号目
次に、『光悦謡本』『紅葉狩』の掲載を許可した。

⑥清水寛『還暦記念能(五尉能初)』（2013年1月中旬に5回
公演）のチラシ、パンフレットに『二曲三体系人形図』『老
体』の図版使用を許可した。

⑦法政大学総長室広報・広聴課発行の雑誌『法政』10月号に、
『能御絵鑑』『楊貴妃』の掲載を許可した。

⑧新潮社発行『芸術新潮』2012年12月号に『二曲三体系
人形図』『天女舞』、『大野勸進能画巻』『舞台并見物棧敷夜之
景』の掲載を許可した。

⑨小学館発行の小学館創業90周年記念企画『日本美術全集』
第13巻「宗達・光琳と桂離宮」（江戸時代Ⅱ）に『光悦謡本
（上製異装本）』『井筒』、『光悦謡本（上製異植本）』『紅葉
狩』の掲載を許可した。（2013年4月刊行）

⑩JR東海生涯学習財団が主催する歴史文化講座『講座 歴

史の歩き方」第62回「風姿花伝」に人生を学ぶ―心より心に伝はる花」(2013年3月7日開催)の配付小冊子に「二曲三体人形図」「女舞」、「老舞」の掲載を許可した。

⑪セクターエイティエイト発行「KENSYO」Vol.8(2013年4月発行)に「二曲三体人形図」「女体」の掲載を許可した。

⑫裏千家同門会発行の機関誌「同門」2013年4月号に「四座役者目録」(上)「宮王三郎鑑氏」の掲載を許可した。

⑬国立能楽堂で開催された平成24年度国立能楽堂収蔵資料展示「野上記念法政大学能楽研究所設立六十周年記念「収蔵資料展」」に「能御絵鑑」、「能楽図絵」、「狂言古画」、「狂言首引図」ほかの貸出を許可した。(会期2012年12月12日～2013年3月20日)

⑭国立能楽堂企画公演(能を再発見するⅢ「業平のゆくえ」(2013年6月13日開催)において、能「世阿弥自筆本による 雲林院」上演のため、謡本「雲林院 世阿弥自筆本による」の使用を許可した。

【雑報】

◇永野秀雄氏が兼任所員を退任

永野秀雄氏(人間環境学部教授)が2012年3月31日付で兼任所員を退任した。

◇高橋悠介氏が兼任所員に就任

高橋悠介氏(神奈川県立金沢文庫学芸員)が2012年4月

1日付で兼任所員に就任した。

◇外国人客員研究員の受入

外国人客員研究員としてシユエマー・パトリック・ラインハート氏(米国プリンストン大学大学院比較文学科博士課程)を受け入れた(2012年6月27日～9月12日)。氏の研究課題は①従来知られていなかったプリンストン大学蔵の絵巻と幸若舞曲「さがみ河」の関係②能楽及び日本の文芸に関する基礎的資料の収集。

◇臨時職員(夜間閲覧業務)の採用

昨年度に引き続き、2012年4月1日付で周重雷氏と東條沙織氏を採用した。昨年度と同様、周氏は火曜日、東條氏は木曜日の夜間閲覧を担当することとなった。

「2012年度の所員名と関連委員名」

◎所員

所長・専任所員	教授	山中	玲子
専任所員	准教授	宮本	圭造
兼任所員	文学部教授	坂本	勝
兼任所員	文学部教授	小秋元	段
兼任所員	文学部教授	ステイーヴン・ネルソン	
兼任所員	文学部准教授	伊海	孝充
兼任所員	国際文化学部教授	鈴木	靖
兼任所員	国際文化学部教授	竹内	晶子
兼任所員	アザイン工学部教授	岩月	正見

発行者は省略。]

- 員会編
 『柳川市史資料編 V *近世文書(後編)*』 柳川市史編集委員会編 平24 *柳川市
 『柳川歴史資料集成第6集 柳川の民俗概観Ⅱ』 柳川市史編集委員会編 平24 *柳川市
 『柳川の歴史4 近世大名立花家』 柳川市史編集委員会編 平24 *柳川市
 『中世文華論集第一巻 能と謡の世界(上)』 伊藤正義著 平24 *伊藤百合子
 『観世流舞車謡曲』 *水野雅子 平24 *末武有二
 『五輪書』 *末武有二
 『Avant-gardes in Japan』 Kafia Centonze 編 平22 *Bonaventura Rupert
 『Sekka Kanisaka-dawn of modern Japanese design』 Khan Trinh 編 平24 *New South Wales Art Gallery
 『能・狂言の見方、楽しみ方』 柳沢新治著 平24 山川出版
 『続狂言の形成と展開』 橋本朝生著 平24 瑞木書房 *橋本はるみ
 『古典劇との対話 今、舞台表現の魅力を探る』 *みなもとつとむ著 平24 翰林書房
 『夢幻の可能性 囃子方が舞台を創る』 *山本哲也・成田達志著 平24 TTR能プロジェクト事務局 *山中玲子
 『都市を描く―京都と江戸―展示図録』 国立歴史民俗博物館・*国文学研究資料館編 平24 人間文化研究機構
 『地域発展のための日本研究 中国、東アジアにおける人文交流を中心に』 国際日本学研究叢書15』 法政大学国際日本学研究所編 平24
 *法政大学国際日本学研究センター
 『日本のアイデンティティ―形成と反響― 2010年アルザス・シンポジウム報告』 国際日本学研究叢書16』 法政大学国際日本学研究所編 平24
 *法政大学国際日本学研究センター
 『THEATRE YEAR-BOOK 2012 Theatre in Japan』 平24 *国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
 『THEATRE YEAR-BOOK 2012 Theatre Abroad 諸外国の演劇事情』 平24 *国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
 『黒川文庫目録〔新版〕追補稿』 *実践女子大学文芸資料研究所編 平24
 『『誹諧絵文匣』注釈抄―江戸座面賛句の謎を解く―』 加藤定彦編著 平24 *勉誠出版
 『The Guide to Noh of the National Noh Theatre Play Summaries of the Traditional Repertory (A~G)』 Richard Emmert 著 平24 *国立能楽堂
 『柳川市史資料編 V *近世文書(前編)*』 柳川市史編集委員会編 平24 *国立能楽堂

『能のかたち NIPPON 美の玉手箱』 *福岡市博物館編

平 24 能のかたち展実行委員会

『能面の世界』 *西野春雄監修、見市泰男解説 平 24

平凡社

『術と呼べるほどのものへ』 平 24 *甲野善紀著

学研パブリッシング

『海に漂う神々―世阿弥が伝えた古代史の真相』 中村真弓著

平 24 幻冬舎ルネッサンス *村上貢

『対訳でたのしむ 班女』 三宅晶子著 平 24 *檜書店

『対訳でたのしむ 千手』 竹本幹夫著 平 24 *檜書店

『対訳でたのしむ 野宮』 竹本幹夫著 平 24 *檜書店

『対訳でたのしむ 屋島・八島』 竹本幹夫著 平 24 *檜書店

*国立能楽堂特別展示 加賀の能楽名品展

『石見神楽小辞典』 浜田市観光振興課監修 平 24 *国立能楽堂

田邊三郎助・長崎巖監修 平 24 *国立能楽堂

『浜田市文化遺産活用事業実行委員会』 *浜田市観光振興課

『カラー百科 見る・知る・読む 能五十番』

小林保治・石黒吉次郎編著 平 25 *勉誠出版

『北はりま定住圏連携事業 文化財巡回共同企画展 西脇・

多可の鬼と天狗』 平 25 *西脇市教育委員会・多可市教

育委員会

『鴨長明とその時代 方丈記 800年記念』 平 24

*国文学研究資料館編

☆雑誌・紀要など (特記した以外は発行所からの寄贈誌名・

号数・発行年・発行所の順)

〈雑誌など〉

葵 徳川美術館だより No.82~85(平24)

岩瀬文庫だより No.33~36(平24・25)

おもて 113~116号(平24・25)

観世 79巻4号~80巻3号(平24・25)

観世九阜会定例会 5月~4月(平24・25)

喜多流職分会自主公演能 5月~5月(平24・25)

喜多流青年能 9月

橘香 57巻1号~12号(平24)

汲古 61・62号(平24)

京都新能 63回(平24)

芸術新潮 12月号「はじめて観る能」 平 24

藝能 18号(平24)

KENSYO vol.85~88(平24・25)

国文研 ニューズ No.27~30(平24・25) セクターエイティエイ

調査研究報告 32号(平24) 国文学研究資料館

国立能楽堂 344~355号(平24・25) 国文学研究資料館

国立能楽堂調査研究 vol.6(平24) 日本芸術文化振興会

金剛の能 第2回~第1回(平24・25) 日本芸術文化振興会

金春月報 33巻4号~34巻3号(平24・25) 東京金剛会

囀り 90~93号(平24・25) 金春月報編集部

近松応援団

西尾市岩瀬文庫

大槻能楽堂

檜書店

観世九阜会

喜多流職分会

喜多流職分会

梅若研能会

汲古書院

京都能楽会

新潮社

藝能学会

サントリー美術館ニュース 239～243号(平24・25)

サントリー美術館

紫明 29・30号(平23・24)

紫明の会

序破急 15号(平24)

大阪能楽養成会後援会

せんだい市史通信 27～29号(平24・25)

仙台市博物館市史編さん室

地方史情報 108～113(平24・25)

岩田書院

鏡仙 612～623(平24・25)

鏡仙会

東海能楽研究会年報 16号(平25)

東海能楽研究会

名古屋芸能文化 22号(平25)

名古屋芸能文化会

日本研究 45・46集(平24)

国際日本文化研究センター

能 648～659号(平24・25)

京都観世会

能楽タイムズ 721～731号(平24・25)

能楽書林

能楽の友 544～555号(平24・25)

能楽の友社

能楽連盟報 93・94号(平24)

新潟県能楽連盟

能スケジュール 594～599号(平24・25)

観世会

能と狂言 10号(平24)

能楽学会

橋がかり 4月～4月(平24・25)

横浜能楽堂

花もよ創刊号(平24)

ぶながく社

書陵部紀要 63号(陵墓編)(平24)

宮内庁書陵部

無形文化遺産研究報告 6号(平24)

東京文化財研究所

廣田鑑賞会能 19回(平24)

廣田鑑賞会

大和座通信 115・116号(平24)

大和座狂言事務所

なごみ 5月号(平24)

淡文社

人間文化研究機構連携展示「都市を描く―京都と江戸―」

(平24) 人間文化研究機構

婦人画報 10月号(平24)

ハースト婦人画報社

『新劇、輝きの60年代 大阪労演とその時代Ⅱ(1960-1969)』

(平24) 関西学院大学博物館開設準備室

『越前池田 能楽の里が選ぶ能面展 第11回全国新作能面公募展作品集』(平25)

池田町伝統文化保存活用実行委員会

〈大学紀要〉

愛知淑徳大学国語国文 35・36号(平24・25)

愛知淑徳大学国文学会

青山語文42号(平24)

青山学院大学日本文学会

跡見学園謡曲仕舞部55年の歩み(平24)

跡見学園元顧問 徳住篤

日本の伝統芸能体感講座実施報告書【付資料集】(平24)

大阪工業大学知的財産学部人文社会研究室

文学史研究52号(平24)

大阪市立大学国語国文学研究室文学史研究会

語文98・99輯(平24)

大阪大学国語国文学会

待兼山論叢 46号(平24)

大阪大学大学院文学研究科

Arts and Media Vol.2(平24)

大阪大学大学院文学研究科

文化動態論専攻 アート・メディア論研究室

演劇学論叢 12号(平24)

大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室

- 上方文化研究センター研究年報 13号(平24)
- 大阪府立大学上方文化研究センター
百舌鳥国文 23号(平24) 大阪府立大学日本語文化学会
言語文化科学研究 日本語日本文学編 7号(平24)
- 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科
文藝論叢 78・79号(平24) 大谷大学文藝學會
岡大國文論稿 40号(平24)
- 岡山大学文学部言語国語国文学会
國文 114号(平24) 御茶の水女子大学国語国文学会
比較日本文学教育研究センター研究年報 9号(平25)
- 御茶の水女子大学比較日本文学教育研究センター
国語国文学会誌 56号(平25) 学習院大学国語国文学会
金沢大学国語国文 37号(平24) 金沢大学国語国文学会
国文学 96号(平24) 関西大学国文学会
国文論藻 京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 11号
37号(平24) 京都女子大学
女子大國文 150・151号(平24) 京都女子大学国文学会
平成23年度京都府立大学地域貢献型特別研究助成金研究成果
報告書「日本と中国の古典演劇の比較研究」(平24)
- 京都府立大学 山崎福之
神戸女子大学古典芸能研究センター紀要 5号・6号(平24)
- 神戸女子大学古典芸能研究センター
日本文学論究 72册(平25) 國學院大學國文學會
駒澤國文 49号(平24) 駒澤大学文学部国文学研究室
- 実践国文学 82・83号(平24・25) 実践国文学会
実践女子大学文学部紀要 54集(平24) 実践女子大学
実践女子大学文芸資料研究所年報 31号(平24) 実践女子大学
文芸資料研究所
人文学報 462(平24) 東京都立大学人文学部
国文学科紀要 30号(平25) 上智大学国文学科
国文学論集 46号(平25) 上智大学国文学会
学苑 日本文学紀要867号(平25)
- 昭和女子大学近代文化研究所
成蹊國文 45号(平24) 成蹊大学文学部日本文学科
近松研究所紀要23号(平24) 園田学園女子大学近松研究所
中央大学国文 56号(平25) 中央大学国文学会
富士論叢 55号巻1号、56号巻1号、57号巻1号
- (平22・23・24)東京富士大学学術研究会
山邊道 54号(平25) 天理大学国語国文学会
同志社国文学 77・78号(平24・25) 同志社大学国文学会
文学論藻 87号(平25) 東洋大学文学部日本文学文化学科
二松 26集(平24) 二松學舎大学大学院文学研究科
二松學舎大学論集55号(平24) 二松學舎大学文学部
二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊 42集(平24)
- 二松学舎大学東アジア学術総合研究所
国文目白 52号(平25) 日本女子大学国語国文学会
演劇創造 41号(平24) 日本大学芸術学部演劇学科
比較文化研究所年報 28号(平24)

- 文学論叢 29号(平24) 徳島文理大学比較文化研究所
- 徳島文理大学文学部文学論叢編集委員会
Performing Arts Studies / 舞台芸術研究 17 (平24)
- 日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程舞台芸術専攻
 仏教学部論集96号・97号(平24・25) 佛教大学仏教学部
 文学部論集 96号・97号(平24・25) 佛教大学文学部
 歴史学部論集 2・3号(平24・25) 佛教大学歴史学部
 文教大学国文 41号(平24) 文教大学国文学会
 法政大学史資料集 33集(平24) 法政大学
The News Letter HOSEI I. HIJAS. No.16・17(平24)
- 法政大学国際日本学研究所・国際日本学研究センター
 法政大学国際日本学研究成果報告集 9号(平24)
- 法政大学国際日本学研究センター
 法政史学 77・78号(平24) 法政大学史学会
 大学院紀要 69・70号(平24・25) 法政大学大学院
 文学部紀要 65・66号(平24・25) 法政大学文学部
 研究と評論 77号(平24) 法政大学第二中・高等学校
 国語国文研究 142号(平25) 北海道大学国語国文学会
 日本文学ノート47号(平24) 宮城学院女子大学日本文学会
 武蔵野大学能楽資料センター紀要 23号(平24)
 武蔵野大学能楽資料センター
- 立教大学日本文学 108・109号(平24・25)
 立教大学日本文学会
- 國文學論叢 58輯(平25) 龍谷大學國文學會
 東西南北 和光大学総合文化研究所年報 2012
 (平24) 和光大学総合文化研究所
 演劇映像学 2012 (Theatre and Film Studies 2012)
 (平25) 早稲田大学演劇博物館「卓越した大学院拠点形成支援
 補助金」
News Letter 2号(平24)
- 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
 国文学研究 166～168集(平24) 早稲田大学国文学会
 演劇研究 35号(平24) 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
 演劇博物館 106・107(平24)
 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
- 演劇映像 53号(平24)
 早稲田大学文学芸術院演劇映像研究室